

ながおかきょうあと 【長岡京跡】

Nagaokakyo

延暦3(784)年、桓武天皇によって平城京から遷都され、都が平安京に遷るまでの10年間、乙訓の地に営まれた都です。政治や儀式を行う場所であった大極殿や朝堂院などの中心部はすべて向日市にありました。向日市はちょうど今の皇居と霞ヶ関にあたり、ここで日本の政治が動かされていました。



長岡宮跡



大極殿公園

●体感アプリ「AR長岡宮」、 ゲーム「怨霊退治モード」で 楽しんでみませんか



「AR長岡宮」はスマートフォンやタブレット端末で史跡長岡宮の理解を深めることができる復元・体感アプリです。画面には、長岡宮の建築物やゆかりのある人物などが出現し、いにしへの長岡宮を現地で体感できます。またバーチャル技術を使ったVR(仮想現実)も見られます。スマートフォンなどをお持ちでない方は、朝堂院公園で貸出用端末(台数に限りあり)をご用意しています。

また、新たにVRゴーグルを使って楽しむことができるゲーム「怨霊退治モード」を追加しました。もちろんVRゴーグルがなくても「AR長岡宮」をダウンロードするだけでどなたでも遊ぶことができます。

VRゴーグルは朝堂院公園で「AR長岡宮」をダウンロードされた方に無料で配布していますので、ぜひVRゴーグルを使って新しくなった「AR長岡宮」をお楽しみください。(VRゴーグルは数に限りがありますのでお早め)

向日市の魅力にふれてみませんか

西日本で一番小さくて、全国でも3番目に小さな市、向日市には歴史やロマンにあふれた観光スポットが数多くあります。ここでは、ほんの一部をご紹介します。



- 人口……57,563人 (平成31年1月1日現在)
- 面積……7.72平方キロメートル

【竹の径】

Takenomichi Street

向日市は、全国有数のタケノコの産地です。「美しい日本の歩きたくなるみち500選」にも選ばれた「竹の径」は、8種類の竹垣が整然と連なる全長約1,800mの竹林道で、1年を通じて緑をたやさず、竹林の間から差し込む陽の光は幻想的です。向日市を訪れた際は、ぜひ立ちよりたい名所のひとつです。



●竹垣にも注目!



【竹穂垣】

竹の径でもっとも多く見ることができる竹の枝をたばねた竹垣です。



【古墳垣】

寺戸大塚古墳前にあり、古墳の形をイメージして作られています。

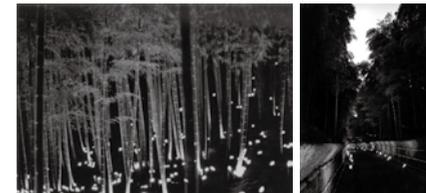


【かぐや垣】

竹筒と竹穂を組み合わせ、かぐや姫の十二単をイメージして作られています。

●竹の径・かぐやの夕べ

水が入った竹筒にろうそくを浮かべた4,000本以上の竹行灯が、竹の径を幻想的にライトアップします。音楽ステージや飲食・物販ブースも設置され、寺戸大塚古墳にはかぐや姫が登場します。毎年10月中旬に開催されますので、ぜひお越しください。



【向日市のグルメ】

Gourmet of Muko City

●タケノコ

向日市は老舗料亭から買いつけがあるほど、良質なタケノコの産地として、全国的に有名です。京都式軟化栽培法という特別な方法で手間をおさずに育てられ、白くやわらかな最上級のタケノコが栽培されます。

春には朝堀りタケノコが店頭で販売されていることもあります。ぜひご賞味ください。



●古代料理

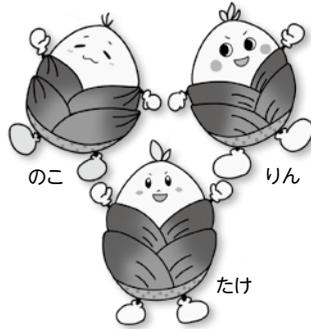
市内の料理店では、古代のチーズといわれる「蘇」など長岡京時代の料理を復元した「大極殿弁当」や、古代の器までもイメージした「大極殿御膳」が提供されています。一度みなさんも古代食を味わってみませんか。



大極殿御膳(京料理・寿司・仕出し 矢尾卯)



大極殿弁当(京料理 魚久)



向日市いいとこPR隊
たけ・のこ・りん

●激辛グルメ

約70店舗が加盟する「京都向日市激辛商店街」。加盟店舗では、和食、洋食、中華料理のみならずデザートにいたるまで、様々な激辛メニューが用意されています。また、毎年秋には「辛くて旨い」激辛グルメを堪能することができる「KARA-1グランプリ」が開催されています。

激辛ファンにとっては、見逃せないイベントのひとつです。



KARA-1 グランプリ



担々麺 (純) 中国料理 麒麟園



からっきー

【古墳・向日神社】

Mounded tomb, Muko-jinja Shrine



●物集女車塚古墳

古墳時代後期(6世紀中頃)につくられた、全長約46m、高さ約8mの前方後円墳。浄和天皇の棺を運ぶ車を埋めた塚との言い伝えがあり、大切にされてきました。形がきれいで石室までよく残っており、毎年内部が一般公開されています。



●元稻荷古墳

勝山公園内にある全長約94mの古墳時代前期初頭の前方後円墳で、乙訓地域ではもっとも古い時期の古墳と考えられています。埴輪の原型である特殊器台形埴輪・壺形土器の出土によって3世紀末の古墳といわれています。刀剣や槍、斧などの副葬品が残っていました。出土した特殊器台形埴輪や壺型土器の発見によって、それまで謎であった「埴輪のルーツ」が明らかになりました。



●向日神社

本殿は応永29(1422)年に建てられ、「三間社流造」という室町時代の建築様式です。国の重要文化財に指定されています。また、本殿を取り囲む13棟の建物も、国の登録有形文化財に登録されています。「明神さん」の名で親しまれ、「向日市」の名の由来となったともいわれています。創建は養老2(718)年で、2018年に鎮座1300年をむかえた古社です。



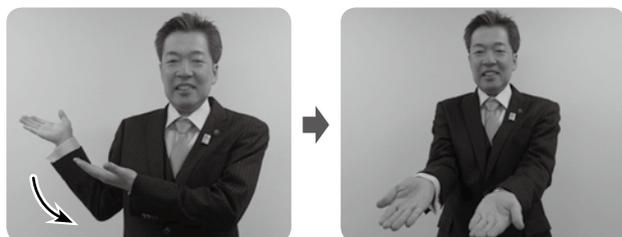
●寺戸大塚古墳

竹の径から見る事ができる古墳時代前期の前方後円墳で、4世紀前半に作られたと言われています。墳丘(古墳)の斜面には葺石と呼ばれるこぶし大の敷石が敷き詰められ、平面の部分には埴輪が大量に並べられていました。発掘調査により三角縁神獣鏡のほか多くの鏡が出土しました。

安田守 向日市長からの手話メッセージ



向日市へ



ようこそ

手話は聞こえない人にとって大切な「言語」です。コミュニケーションには手話が必要であることから、手話は「いのち」と言われる方もおられます。

手話は長い間、聞こえない人たちの中で、大切に育まれ受け継がれてきました。

この本は、手話を知らない、聞こえない人と接したことがないみなさんにも、関心を持っていただくきっかけになればと考えて作成しました。

さて、向日市は西日本で一番小さく、全国でも3番目に小さな市です。長岡京の都が置かれた歴史があり、美しい竹林やおいしいタケノコも魅力の一つです。また、平成29年3月3日(耳の日)に「古都のむこう、ふれあい深める手話言語条例」を制定し、現在手話や手話をとおして障がいへの理解を広めています。この本の舞台となった歴史と文化のあふれるまち、向日市について、住んでおられる方はもっともっと好きになってください。まだ向日市を訪れたことのない人は、ぜひお越しください。心からお待ちしています。

向日市では手話言語条例を制定しています

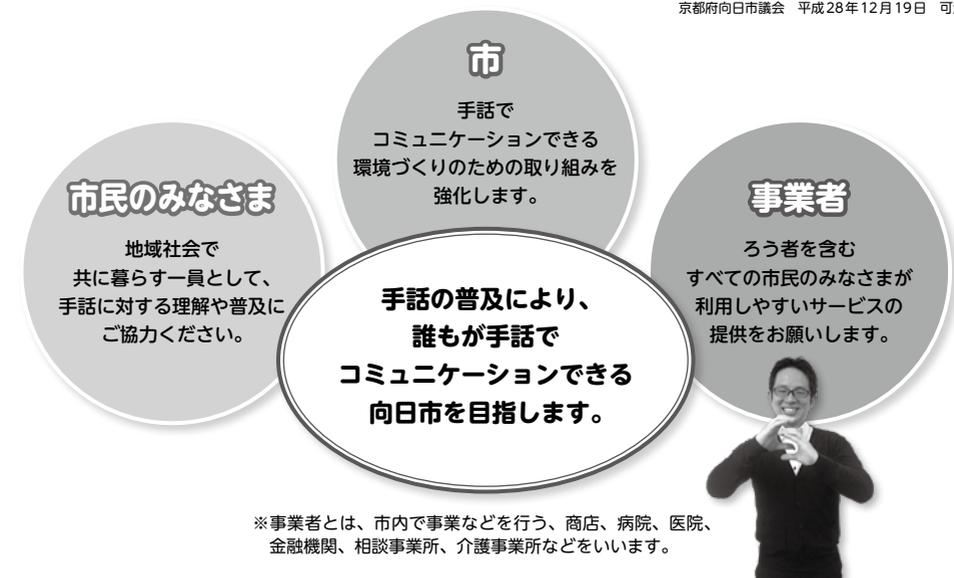
～古都のむこう、ふれあい深める手話言語条例～

向日市では、手話が「言語」であることの認識にもとづき、手話に対する理解がさらに広がるよう環境を整え、すべての人々がおたがいを尊重し、わかり合い、心豊かに安心して暮らすことができる「ふるさと向日市」を目指し、手話言語条例を制定しています。

手話を広める取り組みを進めていますので、市民のみなさまもぜひ手話をおぼえていただき、すべての人にやさしい向日市を一緒に作りませんか。



京都市向日市議会 平成28年12月19日 可決



手話動画を配信しています！

手話だけではなく、聞こえない人の暮らし、向日市のことなど全6話を配信しています。



まず第1話をチェック！
または、YouTubeで
ぜひご覧ください。